

Q：幼児期の子どもと父親との良いかかわり方を教えてください。

A：幼児期における父親の役割として、考えられることは、①父親は「安心感を与える存在」でありながら、「新しい挑戦に子どもを誘う存在」になりやすいです。また、②社会性の基盤づくり寄与してくれます。父親とのあそび（特に、からだを使ったあそび）は、子どもに「待つ・我慢する・ルールを守る」といった社会性を学ばせやすいです。③父親から褒められる、認められる経験は、子どもの「自信」につながっていきます。

良いかかわり方として、① **いっしょに「からだを使って遊ぶ」**：高い高い、キャッチボール、組み体操のようなスキンシップあそび、父親ならではのダイナミックなあそびは、運動能力・平衡感覚・挑戦心をも育んでくれます。「もう一回！」と求められたら応じることで、親子の信頼感も高まります。② **日常生活に関わる**と良いです、とくに、生活リズムに父親が関与することで、一貫性あるしつけと親子の安心感が強まります。③ **感情を受け止める**：失敗した時や泣いた時に「大丈夫、パパも失敗したことあるよ」と共感すると有効です。④ **お手本を示す**：あいさつ、約束を守る、仕事に取り組む姿を見せましょう。幼児は父親の行動をよく観察して学ぶため、「背中で見せるしつけ」が大きな意味をもちます。

実践のヒントとして、「短時間でも濃い関わり」を意識する（5分でも抱きしめて遊ぶ）、仕事帰りに「今日はどんなことが楽しかった？」と話を聞く、週末は「パパといっしょの時間」をあえて確保する。子どもだけでなく、母親を支えることも父親の役割（家庭全体の安心感が増す）です。要は、父親は「子どもを安心させつつ、新しい挑戦に導く存在」として、あそび・生活・感情・しつけの全てに関わることが重要です。

（前橋 明）